

テクノプラザナゴヤ 88

★9 月定例会(講演会)

令和 7 年 9 月 2 日 参加者 11 名
(一社)日本 CLT 協会の事業推進部長 小玉陽史氏を講師に迎え、「木造の中高層建築を支える CLT の概要・最新情報 2025」と題した講演を聴講した。

CLT は Cross Laminated Timber (直行集成板)の略称で、ひき板を並べた後、繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料であり、建築物の構造材をはじめ、土木用材や家具など幅広い用途で活用されている。近年では大阪・関西万博の「大屋根リング」の構造材としても使用された実績もあり、中高層木造建築を支える材料として注目を集めている。

講演では、協会設立から JAS 規格の制定、建築基準法に基づく告示が公布・施行されるまでの経緯が説明され、品質保証された材料のみが建築物に使用されていることが紹介された。また、CLT が注目されている背景として、戦後の植林により増加した森林資源の有効活用が求められている中で、木材の強度や品質のばらつきを抑えられる特長があるとの説明があった。さらに、木材利用の推進が「炭素ストック」を通じて脱炭素社会の実現に寄与する点についても理解を深めることができた。

さらに、林野庁や国土交通省による利用促進のための支援制度について説明を受け、今後の普及拡大への期待が感じられた。木材利用の新たな可能性と、持続可能な社会の実現に向けた取組みを学ぶ有意義な勉強会となった。

★宿泊研修(山形方面)

令和 7 年 10 月 24 日～26 日

参加者 9 名

令和 7 年度の宿泊研修は、山形県を訪問した。

① ㈱鈴木製作所(山形市)

同社は「ベビーロック」ブランドの家庭用ロックミシンを主力製品としている。小型縁かがりミシン「MS ロック」の開発を契機に成長し、現在は海外 27 か国へ輸出を行うなど、海外市場でも高い評価を得ている。また、東北唯一のメーカーとして横型ピロー包装機や家庭用刺し子ミシンも製造しており、ニッチ市場で独自の地位を築いている。

工場見学では、組立から試し縫い、縫い目の確認まで多くの工程が人の手によって行われている様子を見学した。女性従業員が多く活躍しており、立つて行う組立作業エリアにはクッション材を敷くなど、作業負担軽減への配慮も見られた。

海外展開を進める一方で人材確保を課題としており、今後は外国人材の活用も視野に入れているとのことであった。長年培った技術力と品質へのこだわりを実感する有意義な視察となった。

②スズキハイテック㈱(山形市)

同社は 1914 年創業の表面処理メーカーで、自動車向け部品やパワー半導体向けの特種めっきを主力事業としている。2015 年に就任した 5 代目社長のもと、受注型事業から開発主導型経営へ転換し、EV やハイブリッド車向け部品の表面処理技術を強化することで大きな成長を遂げている。現在は従業員約 260 名のうち外国人材が 100 名を超え、女性従業員の比率も 4 割を占めるなど、ダイバーシティ経営にも積極的に取り組んでいる。

工場見学では、特種めっき工程や検査工程を見学した。製造現場では独自技術の開発にも力を入れており、自社設計・開発による検査装置などが高品質な製品づくりを支えている。また、微細加工や超撥水技術、MEMS 関連技術など、新規事業創出に向けた研究開発も進め

られている。

変化を恐れず次なる事業の柱を育て続ける経営姿勢と、多様な人材を活かす組織づくりが印象的であり、持続的な成長に向けた取組みを学ぶ貴重な機会となった。

★11 月定例会(見学会)

伊勢忍者キングダムと伊勢神宮(三重県伊勢市)

令和 7 年 11 月 11 日 参加者 10 名

伊勢市二見町にある伊勢忍者キングダムを訪問し、施設内に再現された安土城天守閣の外観を見学した。同施設の安土城は、織田信長が築いた安土城を原寸大で再現した建築物として知られているが、訪問時は改修工事のため、城内の見学はできなかった。

安土城の屋根瓦には金箔が施されており、その保護のために当会会員企業である㈱吉田 SKT のフッ素樹脂コーティング技術が採用されているとの説明を受けた。フッ素樹脂コーティングは、耐候性や耐薬品性、撥水性などに優れ、部材の保護や長寿命化に活用される表面処理技術である。建設から長期間を経た現在でも外観の輝きが維持されており、同社技術の有効性を感じることができた。

また、近年は安土城跡の発掘調査が進められており、城郭や城下町の実像解明に向けた研究が続けられている。今回の見学では、今後の歴史的建築物の再現においても、現代の表面処理技術が重要な役割果たすことを学ぶ機会となった。

見学後には伊勢神宮内宮を参拝し、伊勢の歴史と文化に触れる機会を得た。今回の視察は、歴史的建築物の再現と現代技術の活用について学ぶ有意義な機会となった。

★2月定例会(見学会)

名古屋能楽堂(中区)

令和 8 年 2 月 3 日 参加者 9 名

名古屋能楽堂を訪問し、施設見学を通じて能楽文化の継承と保存について学んだ。

まず客席数 630 席を有する国内有数の規模を誇る能楽堂の舞台や館内施設について説明を受けた。舞台正面の鏡板には、杉本健吉画伯による若松と老松が描かれており、二種類の鏡板を備える全国的にも珍しい能楽堂であることが紹介された。また、平成 9 年 4 月の開館から長い年月を経ているにもかかわらず、木曽檜を使用した舞台や建築部材は良好な状態に保たれており、日頃の丁寧な維持管理の様子がうかがえた。

舞台裏では楽屋や各種設備を見学し、能楽堂ならではの設えや運営面での工夫について理解を深めた。さらに、実際に能舞台へ上がる機会も得て、伝統芸能の舞台が大切に扱われていることを実感した。

館内の展示室では、能面や能装束、舞台模型などが展示されており、能楽の歴史や演目、舞台構成について学ぶことができた。今回の見学を通じて、日本の伝統文化を継承していくための維持管理や保存活動の重要性を改めて認識するとともに、長年にわたり受け継がれてきた能楽文化への理解を深めることができた。

テクノプラザナゴヤ 001

★9 月定例会(工場見学)

(株)河合電器製作所(東郷町)

令和 7 年 9 月 26 日 参加者 15 名

同社は、創業以来、「熱」を生み出すヒーターの製造に取り組み、長年培った豊富な経験と技術力を活かして顧客の課題解決に貢献している企業である。完全受注生産を基本とし、顧客の細かな要望に応じたオーダーメイドヒーターの設計・製造を得意とするほか、小ロット生産にも柔軟に対応している点が特徴である。加えて、製品の提供にとどまらず、「熱」に関する技術的な課題に対して最適な提案を行うなど、高い専門性を有している。

また、マレーシア科学大学(USM)との交流を通じた人材採用にも取り

組んでおり、採用した学生が正社員として製品開発に携わっている。

同社は働きやすい職場環境づくりにも注力しており、社員食堂などの設備が整備されていた。さらに、社内には社員同士のつながりを大切にする風土が根付いており、ベテランと若手が活発に交流しながら業務に取り組む様子が伺えた。

当日は、まず会社紹介を受けた後、社員食堂でランチをいただいた。ランチは日替わりで、食器には地域の焼き物が使用されており盛り付けも美しく、大変美味しくいただいた。

今回の見学では、専門性の追求と高付加価値化への取組に加え、従業員を大切にする企業文化や働きやすい環境づくりを両立している点が非常に印象的であった。こうした取組は、人材を大切にする組織づくりを進めるうえで大変参考になった。

★マレーシア海外研修

令和 7 年 10 月 7 日～11 日

参加者 4 名

10 月 7 日中部国際空港より、9 時 55 分発のチャイナエアにて一路台北へ。乗換えを経て、20 時にマレーシア・クアラルンプール空港へ到着。初日は移動だけの 1 日となった。

視察 2 日目(10 月 8 日)は、午前中に三菱銀行の現地法人 MUFG バンク・マレーシアを訪問。頭取以下 2 名のお出迎えを受け、頭取自らの 1 時間にもわたる経済レクチャーを拝聴した。マレーシアに関する知識の薄い参加者に対し、懇切丁寧な国の歴史、経済的特徴、今後の可能性について誠に鮮やかな披露であった。殊にマレーシア経済を「燻し銀」に例え、潜在力、クオリティーの高さや、石油資源の背景の上に、イスラム教の過激ではなく節度ある規範、華僑経済力に対する抑制等が、暮らしやすさに結びついている現状を強調された。

午後は、アクリル厚板の製造メーカーである Asia Poly Industrial Sdn Bhd 社を訪問。半自動ラインにおける職人技術のクオリティーの高さを感じた。

その後王宮の見学後ホテル帰着。夜の会食では MUFG バンクの若手行員から日常生活レベルのマレーシア事情を拝聴することができた。

視察 3 日目(10 月 9 日)は、マレーシア中部にある、日邦産業(株)マレーシア工場を訪問した。日邦産業(株)は、テクノプラザナゴヤ 88 の会員企業である。現地で役員と工場長の歓待を受け、自動車部品の製造工程をつぶさに見学することができた。日本式生産方式の移設と、現地独自に発展させたスタイルに感心した。その後セレンバン地区の回教寺院を視察後、古都マラッカへ移動した。

視察 4 日目(10 月 10 日)は、マラッカの旧市街、今でも石油タンカー航路として賑わうマラッカ海峡を視察することができた。

最終日(10 月 11 日)は、また 1 日かけて、台北経由にて中部国際空港に帰着、無事視察旅行を終えた。マレーシアの印象は、2 日目の銀行レクチャーにあったように、まさしく燻し銀のような、経済的安定をベースにしたクオリティーの高さ＝住みやすい国というものであった。

★11 月定例会(会員企業見学)

(株)鳴海鍍金工業所

みよし物流センター(みよし市)

令和 7 年 11 月 13 日 参加者 8 名

同社は 1963 年創業で、板ばねや線ばねなどのばね製品への亜鉛めっきを主力技術としており、複雑な形状のばねに対しても高品質なめっき加工が可能な技術力を有している。また、染色処理やトップコート処理などを組み合わせることで、耐食性の向上や付加価値の創出にも取り組んでいる。

同社では、高仕工場においてカチオン塗装を行うほか、物流センターではめっき最終工程後の外観検査、ゲージによる製品形状検査、組付け、計数・梱包などの付帯作業を担っている。今回見学したみよし物流センターでは、非常に多くのめっき製品が管理されており、多数の治具やゲージが整然と並べられていた。多品種の製品を確実に管理す

る体制が構築されており、品質管理に対する高い意識を感じた。

また、同社の従業員は約 50 名で、年齢層が非常に若く、55 歳以上の社員は在籍していないとのことであった。若手社員が積極的に DX 化へ取り組んでいるという話も伺い、組織の力を感じた。さらに、会員である水野社長が、学生時代に友人の誘いをきっかけにアルバイトとして入社したことが現在につながっているというエピソードには、会員一同大変驚かされた。

かつて全国で約 3,000 社あっためっき会社は、現在では約 1,000 社まで減少しているとのことである。そのような状況の中においても、同社は高い技術力による付加価値創出に加え、後工程まで含めた一貫した対応や、日本各地のめっきメーカーとの幅広いネットワークを活かしながら堅実な経営を続けている。こうした技術力と対応力、さらには業界内の連携を重視する経営姿勢は大変参考になった。

テクノプラザナゴヤ 90

★9 月定例会(講演会)

令和 7 年 9 月 25 日 参加者 12 名

名古屋大学大学院 工学研究科 電気工学専攻 児玉直人助教に「次世代の電気エネルギー供給を支える電力保護技術～直流アーク遮断や気体絶縁を中心として～」と題して直流大電流遮断器開発に関する講演をいただいた。

従来の交流に代わって近年は再生可能エネルギーやEVやデータセンター等で直流が大規模に使われるようになってきている。しかし、自然災害や事故等による火災や停電が問題となっており、大電流に応じた安全性と小型・軽量・低コスト性とを並立させた直流遮断器の開発が課題となっている。

講演では、直流大電流を安全に遮断するための技術について説明を受けた。児玉氏は「ヒューズ」と「半導体遮断器」と「機械開閉器」の3種の組合せを理論的に最適化することにより体積・価格が十分の一で、高速な直流遮断器を開発して

おり、欧・米・中の国際特許を取得していることが紹介された。

講演後、遮断後の復旧の自動化や、変換ロス削減のため全て直流化すべきではないかなどの活発な質疑もあり、次世代の電力インフラを支える技術について、参加者の関心も高く、大変有意義な講演会となった。

★10 月定例会(会員企業見学) ㈱中央製作所(瑞穂区)

令和 7 年 10 月 23 日 参加者 11 名

同社が新たに竣工した「南工場」を中心に工場見学を行った。まず、新工場 2 階の会議室で会社概要や製品群について説明を受けた。

同社は、1918 年に旧制八高(現:名古屋大学)で発明された機械式(ベルトロー)整流器を名古屋高等工業(現:名古屋工業大学)とも共同で日本初の実用化に至り、1936 年に大学発ベンチャー企業として創業した。開発した整流器は「電気の礎」として電気学会から顕彰・展示されるなどしている。以後、大学等の支援も得て、サイリスタ式やインバータ式へ発展させるとともに、電気化学工業用、通信用、映写機用、バッテリー充電電源用、水素製造電源用、核融合炉関連電源用などに用途を拡大してきたことが紹介された。

工場見学は2班に分かれて、新設された南工場(抵抗溶接機・電解加工機・環境機器などの組付け)、および従来からある東工場(直流電源・変圧器などの検査)を見学した。新工場の竣工により、安全性の向上、部品の保管環境改善、製造の動線改善、緑化率改善、などが達成され、生産性、省エネ性、従業員の労働環境向上などにつながっているとのことであった。SDGs と経済性との両立に加え、創業以来受け継がれてきた技術開発を重視する企業風土が感じられる大変有意義な見学会となった。

★宿泊研修(兵庫/姫路方面)

令和 7 年 11 月 14 日～15 日

参加者 11 名
令和 7 年度の宿泊研修は、兵庫県

姫路方面を訪問した。

① 共栄ゴルフ工業(株) (兵庫県神崎郡市川町)

同社は、国産ゴルフ発祥の地、市川町にあるゴルフクラブメーカーであり、匠の技を活かした軟鉄鍛造アイアンヘッドの製造技術で高い評価を得ている。安価で量産に向く鋳造法と違い、同社は緻密で高強度にできる鍛造法での手作りにこだわってきた。

細長い棒状の炭素鋼からゴルフヘッド1個分を切出して超硬合金の金型で鍛造し、溝を刻み、文字を刻印し、磨き、重量や形を整えるなど随所に匠の技を発揮して仕上げていた。

工場見学後は、鋳造製品との打音の比較や、鍛造ヘッド特有の打感についても紹介された。また、新ブランド「TAKUMI JAPAN」から一本で二役を担うパター「Mirai」を実際に手に取って実感することができた。質疑も活発に行われ、匠の技と優れた企画力との組合せが大変参考になった。

② 濱中製鎖工業(株)網干工場 (兵庫県姫路市)

同社は 1936 年創業のチェーンメーカーであり、巨大船舶やタンカーなどの係留に用いられる大型高強度チェーンを製造している。直径 160mm、重量 338kg にも及ぶ超大型チェーンの製造では、日本で唯一、世界でも3本の指に入る企業である。

φ 100mm を超す太径の特殊鋼を切断・加熱・曲げ・火花散る電気溶接・100m を越える長さの鎖の運搬・強度検査など、通常の工場を越えるスケールや厳格な品質管理体制を目の当たりにした。なかでも、フラッシュバット溶接による製鎖工程や、高さ数十メートルに及ぶ連続式熱処理炉を用いた調質工程は圧巻であった。

近年、低価格鎖の分野で隣国産が進出する中、同社は、海底油田掘削や洋上風力発電用等の高規格 R5 の鎖では追随を許しておら

ず、更に深海底のレアメタルやメタンハイドレート資源対応用の超高規格 R6 の鎖も開発中とのこと。

今後の開発目標を明確にし、推進している姿勢が大変参考になり、日本の海洋産業やエネルギー分野を支える技術力について理解を深める有意義な見学となった。

★2月定例会(見学・講演会) DENSO MUSEUM(刈谷市)

令和 8 年 2 月 26 日 参加者 14 名

刈谷市のデンソーミュージアムを訪問し、同社の歴史や自動車技術の進化について学ぶとともに、(株)デンソー研究開発センター シニアアドバイザー 松ヶ谷和沖氏による講演を拝聴した。

見学では、自動車産業の発展とともに歩んできた同社の歴史や、カーエアコン、燃料噴射装置、各種電子制御機器などの技術革新について説明を受けた。また、ワイヤレス給電技術についても紹介され、充電インフラ不足や充電時間の長さといった EV 普及の課題解決に向けた取り組みの一端についての理解を深めた。

講演では、「自動車技術の進化」と題し、自動車業界における電動化(EV)、先進運転支援システム(ADAS)・自動運転、ソフトウェア定義型自動車(SDV)の最新動向について説明を受けた。デンソーでは、SiC(炭化ケイ素)を用いた高効率パワー半導体や次世代インバータの開発を進めるほか、AIを活用した車載 SoC(システム統合基板)の共同開発、自動運転を支えるセンサーやコンピュータ技術の高度化にも取り組んでいる。また、ソフトウェアによって車両機能を進化させる SDV への対応として、車載 OS や統合電子制御ユニット(ECU)の開発も推進していることが紹介された。

質疑応答も活発に行われ、自動車産業の歴史から最先端技術まで幅広く学ぶことができる充実した見学会・講演会となった。

テクノプラザナゴヤ 91

★9 月定例会(工場見学)

(株)テルミック 常滑工場 (常滑市)

令和 7 年 9 月 24 日 参加者 7 名

同社は創業 36 年目を迎え、単品・小ロット部品の加工から組立まで幅広く対応し、短納期を強みとしている。過去の加工データを活用した仕組みにより、機械加工に不慣れな従業員でも業務を遂行できる体制を構築し、定型作業は協力会社へ委託することで、社員は課題解決や新たな価値創出に注力している。従業員約 170 名のうち約 80% が女性で、平均年齢は 34 歳と若い組織である。

また、2008 年頃までの人材確保や定着率の課題に対し、Web マーケティングへの転換や職場環境改善、残業ゼロの推進、充実した福利厚生制度の導入を進めた結果、働きやすい職場づくりを実現している。さらに DX 推進では「紙ゼロ」「ルーティンゼロ」「残業ゼロ」の 3 つの取組みにより、業務効率化とコスト削減を達成している。

見学した常滑工場は約 15 億円を投資して整備された物流兼製造拠点であり、工場内では大型サイネージによる経営情報の見える化、自動倉庫システムや無人搬送ロボットの導入など、先進的な設備が整備されていた。加えて、各種三次元測定機や蛍光 X 線分析計など高度な検査機器も導入されており、高品質なものづくりを支える体制が構築されていた。現場の DX 活用と人材戦略を両立しながら成長を続ける同社の取組みは非常に参考になった。

★宿泊研修(福井・石川方面)

令和 7 年 10 月 9 日～10 日

参加者 6 名

令和 7 年の宿泊研修は、福井県 2 社・石川県 1 社の 3 社を訪問した。

①(株)松浦機械製作所武生工場 (福井県越前市)

同社は 1935 年創業の工作機械メーカーで、5 軸マシニングセンターやハイブリッド金属 3D プリンタの製

造・販売を手掛けている。売上高は 158 億円で、売上の約 7 割を輸出が占める。武生工場は 2025 年竣工で、全従業員 427 名のうち約 250 名が働いており、女性活躍を目指して食堂、パウダールームを整備している。

工場内は無窓構造で温度を一定に保ち、高精度加工を実現していた。ライン生産ではなく手作業による組立を行っており、1 台あたり概ね 3 人で 3 か月を要するとのこと。製品の大半がオーダーメイドで、多彩なオプション対応できる高い技術力が強みである。技術継承が課題となっているものの、採用は比較的順調ということであった。同社の技術力の高さを実感する視察となった。

②ヨシダ工業(株)(福井県鯖江市)

同社は 1948 年創業の精密部品メーカーであり、眼鏡部品の蝶番製造から事業をスタートし、現在は楽器部品や医療機器部品へと事業領域を拡大している。従業員 91 名は全員正社員で、男女比もほぼ同数である。完全週休二日制や年間休日 120 日を確保するなど働きやすい環境づくりにも取り組んでいる。売上の 7～8 割を医療機器部品が占め、内視鏡関連部品や超音波メスなどを製造している。

工場見学では、眼鏡蝶番、楽器部品、医療部品の各製造現場を視察した。眼鏡部品ではデザイン性向上や工程の自動化を進め、楽器部品では鍛造技術を活かして世界的メーカー向けの部品を供給している。医療分野ではチタン加工技術を強みに事業を拡大しており、既存技術を活用した新市場開拓の好例として印象に残った。

③(株)小林製作所(石川県白山市)

同社は、工作機械や半導体製造装置の外装などを手掛ける精密板金加工メーカーで、「世界最強の多品種少量生産」を掲げ、月間 3～4 万種類、20 万アイテムを超える製品を納期遵守率 100%で生産している。受注から設計、加工、塗装、組立までを一貫して管理しており、その中核を担うのが自社開発の

「Sopak DX」である。同システムは、カメラシステム、生産管理システム、スケジューラーシステムで構成され、作業の見える化やトレーサビリティの確保、生産性向上に大きく貢献している。自社利用にとどまらず外販も行っており、現場の課題から生まれたDXの好事例として大変参考になった。

また、リーマンショック時にも人員削減を行わず、人材育成を継続しながら成長を続け、売上を大きく伸ばしてきた同社の経営姿勢にも感銘を受けた。

★11月定例会(工場見学)

中日本炉工業(株)(あま市)

令和7年11月20日 参加者10名

同社は創業60年の工業用真空炉メーカーであり、真空炉の設計・製造を主力事業としている。受託熱処理による技術提案にも力を入れており、保有する約20基の真空炉を活用して新素材や試作品の熱処理を受託することで、顧客に新たな可能性を提案している点が特徴的であった。

技術面では、真空炉や独自技術であるASP窒化処理、カーボンニュートラルへの取組みについて説明を受けた。真空熱処理や熱CVDコーティングは、金型や工具の耐摩耗性・耐熱性・耐食性を向上させ、製品の長寿命化に寄与する技術である。また、断熱材の改良や輻射熱の低減による省エネルギー化にも取り組んでおり、環境負荷の低減に向けた姿勢が伺えた。

工場見学では、炉の稼働状況をリアルタイムで可視化するシステムや、タブレットを活用した受注管理による業務効率化の事例を見学した。さらに、真空洗浄機や各種熱処理炉、高度な分析・評価設備を備えた検査室も見学し、品質を支える高い技術力を感じることができた。

また、同社では研究開発体制の強化やDX推進にも積極的に取り組み、業務改善と人材育成を通じて働きやすい職場環境づくりを進めているとのことであった。現場で活用されている先進的な技術や業務改善の取組みを見ることができ、有

意義な見学会となった。

テクノプラザナゴヤ合同事業

★「大連製造企業交流会」

との交流会

令和7年10月28日 参加者5名
於 名古屋市工業研究所

日本での新たなビジネスパートナー企業の開拓を希望する「大連製造企業交流会」10社15名が来日し、テクノプラザナゴヤの会員企業との意見交換会・交流会を行った。

後日、参加した大連の製造企業より、「お互いの業務内容、ビジネスの推進可能性等を検討でき、満足しています」との声をいただいた。

★先進工場見学

(株)光機械製作所(三重県津市)

令和7年11月17日 参加者11名

人材方針“3Gs”のもと、多用な人材で工作機械やレーザー加工機等を製造する、(株)光機械製作所を訪問した。

見学だけでなく直接代表取締役社長の西岡慶子氏から同社の取組み、技術について話を聞くことができた。参加者からは、「機械メーカーは各自特色があり、面白かった」「大変勉強になった。規模に関わらず光るモノを有する企業への見学を今後も期待する」等の声があり、非常に有意義な見学会となった。

★新春講演会・交流会

「ビジネス温故知新」

① 豊臣政権を「経営」した兄弟

～秀吉と秀長のほんとうの関係～

九度山・真田ミュージアム名誉館長/

大阪城天守閣前館長 北川 央氏

② つなぐ～100年企業5代目社長の

葛藤と挑戦～

(株)能作 代表取締役社長 能作千春氏

令和8年1月29日 参加者129名

於 名古屋市工業研究所

NHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」にあわせ、「ビジネス温故知新」をテーマに、北川央氏と能作千春氏にご講演をいただいた。

今回は、名古屋市工業研究所で開催し、講演会後の交流会では、

同研究所の職員も含め、参加者間で交流を深めた。

参加者からは、「交流会では、とても盛り上がり、良い刺激を受けた」「いずれの講演も、良かった。ぜひ(株)能作さんへ見学に行ってみたい」といった声が上がっていた。